

東日本大震災から復旧した重要伝統的建造物群保存地区 (茨城県桜川市)

桜川市真壁地区は、戦国時代末期の真壁城の城下町に起源を持つ。江戸時代には笠間藩の陣屋が置かれ、周辺の商品・農産物の集散地として、また木綿商いの中継地として栄えた。現在の町並みは、この頃の地割りをよく留め、約100棟の登録有形文化財をはじめとする数多くの伝統的な建造物が残る。平成21年に歴史まちづくり計画の認定を受け、平成22年には重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

高久(たかく)家住宅は、明治期の建築とされる店舗兼住宅で、その立地や規模の大きさから真壁を代表する建物である。戦後、肥料商をたんだ後は、平成9年まで住居とされた。平成23年の東日本大震災後は市に寄贈され、国土交通省の財政支援を受けて災害復旧が図られた。現在はチャレンジショップとして活用されている。



復旧した高久家住宅

before



被災後の状態(屋根瓦の全体的なズレ、隅棟の崩落、壁の剥落などの被害が出た)



チャレンジショップに活用されている様子
 左上:着物リメイク品の販売(令和6年度)
 左下:軽食、食器の販売(令和7年度)
 右上:ヘッドマッサージ(令和6年度)

【事業に関する情報】

- ・主屋・門・納屋の修理及び塀の修景事業を実施。
- ・痕跡調査などにより外観は旧来の姿に近い形へ復元。
- ・内部は復元修理を基本としつつ、活用に向けて水回りは現代的な設備を入れた整備を実施。

【事業関連データ】(計画認定:平成21年)

事業名 旧高久家整備事業
事業主体 桜川市
事業実施重点区域名 在郷町真壁地区
事業期間 平成23年度～令和2年度
活用した補助金
 国土交通省
 ・景観・歴史的環境形成総合支援事業
 ・街なみ環境整備事業

事業の実施に伴う土地・建物の取得

- ・土地:なし(貸借)
- ・建物:取得(寄贈)(約190㎡)

文化財等の指定状況

- ・高久家住宅店舗:国登録有形文化財(建築物)
- ・桜川市真壁伝統的建造物群保存地区:重要伝統的建造物群保存地区
- ※真壁地区の国登録有形文化財:101棟

【有識者からのコメント】

この地区では、住民の努力で登録有形文化財が増え、これが平成21年の歴史まちづくり計画の認定、翌年の旧真壁郵便局公有化及び重要伝統的建造物群保存地区選定に繋がった。直後に東日本大震災で被災し、保存修理事業は災害復旧から始まった。伝統的建造物の復旧には市・県・国を合わせて97.5%の補助となった文化財関係補助金が用いられた。公開活用のための内部や設備の整備を要した高久家住宅には景観・環境整備関係の財政支援が充てられた。取り壊しの話もあった建物であるが、残してほしいという地元の声に応じて所有者が市に寄贈し、市の尽力と国土交通省の支援により、甦ったものである。(下間)